

—若手技術者のコーナー—

技術職員10年目の出来事



1. はじめに

私は平成21年に島根県に入庁し、これまでに道路建設、地籍調査、都市計画や維持管理と様々な業務を担当してきた。本文では、入庁してちょうど10年目となる平成30年度に企画した出来事について紹介する。

2. 自分の想いに正直に

平成27年度から3年間、県庁で都市計画事業に携わった。そこでは、“将来あるべきまちの姿”について市町村と議論を重ねる毎日にやりがいを感じた。一方で、自分が「〇〇をやりましょう」「〇〇の方がいいのに…」と思いながらも、“まちづくりの主役は市町村”という中で、県の立ち位置の難しさを感じることもあった。

平成30年度からは神話のふるさとの象徴“国宝出雲大社”で有名な出雲市にある出先事務所で維持管理業務を担当することとなった。

異動して数日後、出雲市駅前を歩いていたときに車止め兼プランター（フラワーポット）の中にゴミが捨てられているのを発見した。この施設は約15年前、くしくも都市計画事業において設置され、県が維持管理をするべき施設であった。設置当初は沿道の住民が花を植えるなど、まちづくりの一役を担っていたものであった。しかし、市民の高齢化により活動は途絶え、ゴミが捨てられるといった悲しい現状となっており、過去には県と市から住民に「もう一度花を植えて欲しい」とお願いするも、「難しい。コンクリートで蓋をして欲しい」と回答を得ていた。

都市計画事業を担当していたときに感じていたモヤモヤ感もあり、「自分で何とかしたい」「出雲市の玄関口に、もう一度市民の手で花を植えて欲しい」と企画書を練り、上司に相談しながら取り組んでいった。企画の実現にあたっては、沿道の住民宅を1軒ずつ回っただけでなく、地元の出雲農林高校の植物科学科にも協力を仰ぎ、住民、高校生、市、県の協働による「花植え」を実現することができた。

平成30年11月12日、小雨の降る中ではあったが、約70名が出雲市駅前に集まった。私の方から「楽

しくやってください！」と事前説明をした後、高校生に植え方を指導していただきながら花植えを行った。その様子は地元メディアにも取り上げられ、地元建設会社やコンサルタントなどから激励されるなど、様々な反響もあった。作業完了後には、参加された住民が「この活動を継続するためにはどうしたらよいか」と話し合っている姿を見ることができ、「企画してよかった」と安堵した。現在は、この活動が継続できるような仕掛けづくりを模索中である。



花植え作業当日の様子



元ゴミ捨てポットと花植え作業の様子

3. おわりに～これからも変わらずに～

今回の企画について、例えば地元の要望のとおりコンクリートで蓋をするなどの方法もあった。しかし、まちのためには住民の参加が不可欠だと思いたし、その自分の想いがあったからこそ様々な人を巻き込むことができたと思う。これからも、入庁時に持っていた「島根県のために」という気持ちを忘れず、考え、悩み、そして行動していきたい。

（島根県 出雲県土整備事務所 福頼 優）